

新富町 議会だより

119号
2023年
7月

6月定例会

- ・議長・副議長挨拶
- ・新富町議会 新体制でスタート
- ・6月定例会 一般質問（7名）
- ・議会報告
- ・議案審議結果
- ・Pick up（富田浜漕艇場）

議長、副議長就任あいさつ

議長 阿萬 誠郎



この度、5月1日に改選後初の臨時議会が開催され、議員のみなさまから推挙いただき、新富町議会議長に就任いたしました。誠に身に余る光栄であるとともに、責任の重さを痛感する次第であります。

現在、地方分権の進展により、地方自治体の権限や機能が拡大しており、二元代表制の元、議会の役割・機能を十分果たすことによって、本町の発展につながるものであると考えております。

議会運営につきましては、公平無私を旨とし、言論の府として新富町議会が円滑・円満に運営されますよう誠心誠意、努力する所存であります。

また、本町におきましても少子高齢化の進む中、様々な課題が山積しております。このことに応えるべく、町執行部とお互いの切磋琢磨しつつ、議員一丸となって、本町の発展と住民福祉の向上を目指し、職責を全うする所存であります。

どうぞ皆様のご指導ご鞭撻のほど、心からお願いを申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

副議長 石崎 俊二



改選後の臨時会におきまして、議員のみなさまの推挙により副議長に就任いたしました。その責務の重さに身が引き締まる思いであります。今後は副議長の職務を遂行すると共に、議長の補佐役として町政の推進及び議会の公正かつ円滑な運営に努めて参ります。

今後とも、町民の皆様の温かいご支援ご指導をお願い申し上げます。副議長就任のご挨拶いたします。

新富町議会、新体制でスタート!

議員紹介 ※議席番号順

阿萬 誠郎
羽田野 治
今村 行信
石崎 俊二
松浦 美緒
小山 早苗
揖斐 兼久
出口 喜重郎
大木 俊二
圖師 孝一
三浦 千尋
吉田 貴行

議会活性化特別委員会

委員は、議長を除く全議員11名で構成され、委員会には議長もオブザーバーとして出席します。議会活性化に関する調査・研究を行います。

【委員長】

石崎 俊二

【副委員長】

松浦 美緒

議会運営委員会

議会の運営に関する事項、会議規則、委員会条例に関すること、議長の諮問に関する事項等を調査し、円滑な議会運営を行うために設置されています。

【所属議員】※写真右から

小山 早苗
揖斐 兼久(副委員長)
吉田 貴行(委員長)
石崎 俊二
三浦 千尋



文教厚生常任委員会



教育、民生、労働及び保健衛生に関する事項を所管とする委員会です。

【所属議員】※写真右から

羽田野 治
大木 俊二(副委員長)
小山 早苗(委員長)
石崎 俊二
吉田 貴行
圖師 孝一

総務産業常任委員会



行政一般、財政、農林水産業、商工業、水道事業、土木に関する事項及び他の常任委員会に属さない事項を所管とする委員会です。

【所属議員】※写真右から

阿萬 誠郎
今村 行信
揖斐 兼久(委員長)
松浦 美緒(副委員長)
出口 喜重郎
三浦 千尋



議会広報特別委員会



議会広報誌「新富町議会だより」の編集・発行を行います。

【所属議員】※写真右から

今村 行信
揖斐 兼久
小山 早苗(副委員長)
羽田野 治(委員長)
松浦 美緒
石崎 俊二

基地対策特別委員会



新田原基地周辺の生活環境等の改善や、基地問題の調査研究を行います。また、諸問題改善に向け要望活動を行います。

【所属議員】※写真右から

揖斐 兼久
大木 俊二(副委員長)
今村 行信(委員長)
松浦 美緒
出口 喜重郎



こやま さなえ
小山早苗議員
町長

本町の減災への取り組みは

防災訓練などで町民の
防災意識の高揚を図っていく

問 努力義務とされている個別避難計画の作成状況は。

町長 災害リスクの高い地域に在住の、避難行動要支援者に該当する205名のうち49・7%、102名の計画書が作成済みである。

問 自主防災組織の活動は。

町長 現在39地区が自主防災組織を結成し、避難訓練を行うなど各地域で自助・共助の取り組みを行っている。

問 資格取得の助成をしている町内の防災士の活動は。

町長 現在95名が防災士資格を取得し、各地域の自主防災組織のリーダーとして防災・減災活動に取り組んでいる。



新しく整備された防災倉庫（役場駐車場内）

問 今後の減災への取り組みは

町長 個別避難計画の作成をさらに進め、防災訓練や危機管理専門員による防災講話を積極的に取り組み、町民の防災意識の高揚を図っていききたい。

子育て支援について

問 児童生徒の国際交流への取り組みは

教育長 国際交流事業として、

平成9年度から中学生を対象とした海外派遣事業を毎年行っていたが、令和2年度以降は新型コロナウイルスの影響で中止となっている。いまだ世界的に感染は続いており、今年度も実施は難しいと判断している。代わる交流事業として多くの子どもたちが参加できる「しんとみ学び塾」を開催し、昨年度からICTを活用したオンラインによる国際交流を実施しており、今年度も8月に予定している。

問 みんなが楽しみにしている富田浜プールの今年の営業は。

町長 今年度の開園が可能か検討してきたが、施設の老朽化など様々な課題があり、子どもたちに対しては大変心苦しいが今年度も開園を断念した。

まちづくりについて

問 今後、福祉を中心としたまちづくり支援事業に方針を変更すると伺ったが、新たな「まちづくり実施計画」を協議する上で上新田地域に高齢者住宅や高齢者施設の検討をして頂きたいが、町長の考えは。

町長 具体的にどのような活用するか示せる状況ではないが、今後も地域の意見を伺いながら検討していく。

問 観光案内としてわかりやすい町内マップや観光ガイドブックを作成し、町内のコンビニや事業所などに設置してはどうか。

町長 検討し、進めていく。



現在発行されている
観光ガイドブック



いまむらゆきのふ
今村行信議員

町長

さらに町民から信頼される
職員育成を

職員のスキルアップに務める

問

町民の方々から信頼される職員となるように資質向上のため、人事評価制度の活用や効率的・効果的な研修を実施し、職員を育てるのも町長の仕事ではないか。

町長

適材適所・町民のため

になる異動を行うとともに、誰もが業務に対応できる役場を作るよう研修を実施し、職員全体で組織強化に取り組んでいる。挨拶の励行・課内での人材育成も業務の一つである。人事を大事に思っただけで、改変されていない変革を行い徐々に改善されている。さらに町民の皆様が信頼されるよう職員のスキルを上げ「接遇をしっかりとる」「対応を一つ一つしっかりとる」よう努めている。

三納代地区

地域活性化エリアについて

問

交流人口が多くなることにより、町民のためになる経済効果は見込めるのか。

町長

スタジアムは民間が建

設し無償で町に寄付されたものである。さらにフットボールセンターが出来た事によりスマートインターチェンジと国道10号線改修工事の採択、JR新富駅のダイヤ増や駅のバリアフリー化が決定するなどの効果が出た。約10万人の交流が見込まれるので、町にとって効果があると考えられる。



問 三納代地区地域活性化エリアを町民に理解してもらうためには、情報発信を行うことが必要ではないか。

町長

施設整備が出来たので効果等も含めしっかりとお知らせしていきたい。

問

サッカー場関連の施設整備は終わったのか。

町長

国民スポーツ大会のため、三納代コミュニティ広場か富田浜公園のどちらか一ヶ所をサッカー場として整備することで県と協議している。



新富町フットボールセンター
予約も順調に埋まっているようです

町営公共交通網の地域
格差をなくした拡充を

問

今後も高齢化が進み運転免許証自主返納者が増えると推測される。コミュニティバス・乗り合いタクシーの町営公共交通網があるが地域格差を感じる。さらなる拡充が必要ではないか。

町長

本町の町営公共交通はかなり充実しているが、利便性向上を目指し、当日の予約が可能か、台数を増やすことが可能かなど、何ができるのか総合的に検討している段階である。



利便性の向上が望まれる



いびかねひさ
揖斐兼久議員

町長

交付金等の

増額は確認できたか

一部増額されていない
引き続き要望する

問 防音工事の昨年度の進捗と今年度の工事予定数は。

町長 昨年20世帯が完了し、10世帯が工事中である。今年度は50世帯が計画されている。

問 防音工事助成限度額の見直しはされるのか。上限を超えた場合は個人負担となるのか。

町長 資機材の高騰により単価等の見直しは行ったが、助成限度額は現在検討中である。上限額を超えた場合は個人負担となる。早期に見直されるよう、引き続き要望する。

問 緊急時使用に係る施設整備終了に伴い、基地交付金の増額は確認できたが、そのほかは確認できなかった。今後

の対応は。

町長 適切な対応がなされるよう、引き続き要望活動を実施する。

問 F-35B導入に伴う施設整備について、住民に説明があったか。また住民の不安はどこにあるか。

町長 昨年12月に区長会で説明。町民の多くは騒音について不安を持っている。丁寧な対応と十分な説明を要請する。



防音工事、個人負担は避けてもらいたい

防災危機管理の準備は

問 大雨や台風対策はどのような準備をしたのか。

町長 町が管理している各種施設の事前点検整備。災害対策本部の初動体制の確認。関係機関との情報伝達訓練を実施した。

問 一ツ瀬ダム等の事前放流の要領は。

町長 事前放流については、県と九州電力で協定を結んでおり、協定に従い実施している。

問 昨年の台風14号における反省点、県の地域防災計画に反映されていない。県に關与してほしいが町長の見解は。

町長 今後、反省会等が予定。そこでしっかりと意見を述べ

問 南海沖地震に対する備えは。

町長 訓練が重要。6月16日に町対策本部の訓練を実施。

また、住民参加による防災訓練を定期的実施し、防災講話などで防災意識の高揚を図る。



大雨災害はどう防ぐ？

三納代地区の 今後の計画は

問 三納代北地区の全体像は。

町長 既存の施設のほか、農産物直売所、商業施設の誘致を計画している。

問 フットボールセンターの利用状況は。

町長 休日は、ほぼ大会等が予定されている。来年3月まで、今現在111日の予約。

マルシヨク跡地について

問 問題点や解決策は。

町長 建物の撤去費用及び商圏の問題がある。



みうら ちひろ
三浦千尋議員

町長

人口減少に対する

町長の認識は

予測より緩やかな減少となっている

問 地域再生は待っているとは出来ない。人口減少における町長の認識を伺う。

町長 ピーク時から約2900人減少。抑制政策として雇用創出や新しい人の流れ、共生する地域コミュニティづくり等の施策を打った。社人研推計より大幅に少ない413人の減少に留まった。

問 住み続けてもらうための町長の認識は。

町長 「子や孫たちが帰ってきたくなるまち」を基本に取り組みを進めている。町の魅力を高めることが、住み続けるための重要な要素と考える。

町道周辺の

雑木雑草対策は

問 町道周辺は、住民の高齢化や人口減少が重なり、管理が大変厳しくなっているが、町の認識は。

町長 交通にも支障を来していることを認識。予算の確保に努める。

問 維持費については、予算増額や新たな制度構築も必要ではないか。

町長 令和元年度から防衛省の調整交付金事業を活用し、道路維持管理基金を創設して、計画的に予算を積み立てながら運用している。



原材料の価格高騰が
多方面で影響している

農業問題について

問 飼肥料高騰が子牛価格に与える影響は。

町長 高止まりが継続し、畜産経営を圧迫している。肥育業者の素牛導入の買い控えが見受けられ、子牛価格も値下がりしている。

問 酪農業対策は急務だ。対策を伺う。

町長 昨年度から農業施策においては、緊急給付金など1億4000万円の支援を実施。今後とも国の動向を注視し、児湯農協や管内町村とも連携し、検討を進める。

スマートIC周辺の

活性化対策は

問 開通後の人流促進と企業誘致の具体策は。

町長 周辺土地の利活用が必要。企業立地や周辺交通網を活用した、新富町内への周遊も視野に進め、企業誘致の情報発信をする。

問 利活用のための役場内専門部署は。

町長 総合政策課まちづくり推進室で対応している。



スマートIC完成予想図